

「デルベからアンテオケへの帰還」

使徒 14 : 20～28

1. はじめに

- (1) 第一次伝道旅行（13 : 1～14 : 28）が始まった。
- (2) 訪問地（地図で確認）
 - ⑦イコニオム（使 14 : 1～7）
*石打の刑を避けて、町を出た。
 - ⑧ルステラ（使 14 : 8～19）
*石打の刑でパウロは瀕死の状態になった。
 - ⑨デルベ（使 14 : 20）
 - ⑩ルステラ、イコニオム、ピシデヤのアンテオケ（使 14 : 21～23）
 - ⑪パンフリヤのペルガ、アタリヤ（使 14 : 24～25）
 - ⑫アンテオケ（使 14 : 26～28）

2. アウトライン

9. デルベ（使 14 : 20）
10. ルステラ、イコニオム、ピシデヤのアンテオケ（使 14 : 21～23）
11. パンフリヤのペルガ、アタリヤ（使 14 : 24～25）
12. アンテオケ（使 14 : 26～28）

結論：第一次伝道旅行のまとめ

第一次伝道旅行の最後の部分について学ぶ。

IX. デルベ（使 14 : 20～21a）

1. 20 節

Act 14:20 しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入ってしまった。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。

- (1) ルステラで、パウロは石打の刑に遭った。
 - ①ユダヤ人たちは、パウロが死んだものと思い、町の外に引きずり出した。
 - ②彼らは、その場からいなくなった。
- (2) 信者たちはパウロの周りに集まって来た。
 - ①パウロの宣教の結果、小さな教会が誕生していた。

- ②信者たちは、パウロが生きているのか死んだのかを確かめに来た。
 - *生きているなら、癒しを祈る必要がある。
 - *死んだのなら、埋葬の準備をする必要がある。
 - ③信者の群れの中に、青年テモテ(当時15歳)がいた可能性がある。
- (3) しかしパウロは、すぐに立ち上がって町に入って行った。
- ①これは奇跡的な癒しである。
 - ②パウロは、立ち上がって町に戻って行った。
 - ③町の住民たちがどのような態度を示したかについては、ルカは記録していない。
- (4) 翌日、パウロはバルナバとともにデルベに向った。
- ①ルステラに居続けるのは得策ではない。
 - ②デルベは、ルステラから約95キロ離れた町。
 - ③ローマ帝国の東の境界にある町。

2. 21節 a

Act 14:21a 彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、

- (5) デルベでの伝道は、大いに祝された。
- ①ルカの記述は、簡潔なものである。
 - *彼らはその町で福音を宣べ伝えた。
 - *そして、多くの人を弟子とした。
 - ②神は、必要な時に私たちを励ましてくださる。

X. ルステラ、イコニオム、ピシデヤのアンテオケ(使14:21~23)

1. 21節 b

Act 14:21b ルステラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、

- (1) デルベはローマ帝国の東の端にある町である。
- ①そこから先には行けないので、元来た道を引き返す。
 - ②ルステラ、イコニオム、ピシデヤのアンテオケ
 - ③これらの町々で、パウロは迫害に遭ってきた。
- (2) それらの町々を再度訪問する理由は、フォローアップのためである。
- ①パウロとバルナバは、伝道の次に弟子訓練が必要であることを知っていた。
 - ②彼らの信仰、献身、勇気に着目しよう。

2. 22節

Act 14:22 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」と言った。

(1) フォローアップの内容

- ①新しく信仰に入った者たちの心を強めた。
- ②イエスを信じる信仰にとどまるように勧めた。
- ③異教世界の中から救われた者たちは、大いに励ましを必要としていた。
- ④これは、組織神学的な慰めである。

(2) 「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」

- ①神の国に入るための条件は、多くの苦難を経験することだという意味ではない。
*彼らは、すでに信仰によって救われていた人たちである。
- ②彼らは、なぜ迫害に遭うのかという理由を知る必要があった。
- ③「神の国」とは、地上に成就するメシア的王国のことである。
- ④メシア的王国が成就するまでは、多くの苦しみを通ずる信者が多く出る。

3. 23節

Act 14:23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。

(1) 教会を組織化することによっても、彼らを励ました。

- ①ユダヤ教の会堂の組織をコピーし、それを教会に適用した。
- ②これは、実践神学的な慰めである。

(2) 長老たちを選び、断食をして祈った。

- ①長老は、信者になったばかりの者であってはならない(1テモ3:6)。

1Ti 3:6 また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。

- ②会堂で長老だった者たちが、教会の長老になったと思われる。

(3) 祈りの後、彼らを主に委ねた。

- ①自分にできることをしたなら、後は主に委ねるしかない。

(ILL) 対象的な2人の大伝道者

XI. パンフリヤのペルガ、アタリヤ (使 14 : 24~25)

1. 24~25 節

Act 14:24 ふたりはピシデヤを通過してパンフリヤに着き、

Act 14:25 ペルガでみことばを語ってから、アタリヤに下り、

(1) ピシデヤのアンテオケ経由で、パンフリヤのペルガに行った。

①前回の訪問では、伝道の記録がない。

②マルコの問題が出て来た (使 13 : 13)。

Act 13:13 パウロの一行は、パposから船出して、パンフリヤのペルガに渡った。ここでヨハネは一行から離れて、エルサレムに帰った。

③今回は、「ペルガでみことばを語った」と書かれている。

(2) アタリヤはペルガに隣接する港町である。

XII. アンテオケ (使 14 : 26~28)

1. 26 節

Act 14:26 そこから船でアンテオケに帰った。そこは、彼らがいま成し遂げた働きのために、以前神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。

(1) ペルガから船に乗って、アンテオケに帰った。

①なぜキプロス島に戻らなかったのかは、分からない。

*恐らく、永続性のある教会が誕生しなかったのであろう。

②アンテオケへの帰還は、紀元 49 年の秋頃であろう。約 1 年半が経過した。

2. 27~28 節

Act 14:27 そこに着くと、教会の人々を集め、神が彼らとともにいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったこととを報告した。

Act 14:28 そして、彼らはかなり長い期間を弟子たちとともに過ごした。

(1) 派遣教会に戻った彼らは、宣教報告会を開催した。

①神が彼らとともにいて行われたすべてのこと

②異邦人に信仰の門を開いてくださったこと

(2) 大きな変化

①リーダーがバルナバからパウロに変更になった。

②キリスト教の中心が、エルサレム教会からアンテオケ教会に移行し始めた。

*パウロとバルナバは、エルサレム教会には宣教報告を行っていない。

*エルサレム教会は、事態の変化にどのような姿勢を示すだろうか。

結論：第一次伝道旅行のまとめ

1. パウロの伝道のパターンが決まった。

- (1) 大きな町を訪問し、そこにあるユダヤ人の会堂に行く。
- (2) ユダヤ人と宗教的な異邦人（改宗者、神を恐れる異邦人）に語りかける。
- (3) 信じた人たちを宣教の基地として、広く異邦人世界に語りかける。

2. 神がともにいて御業を行われた。

- (1) パウロとバルナバは、神が用いる器である。
- (2) 伝道の主体は神である。
- (3) 主イエスの約束（マタ 28：20）

Mat 28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

3. 伝道に続く弟子訓練の重要性が認識された。

- (1) パウロとバルナバは、危険を承知で、教会が誕生した町々を再度訪問した。
- (2) そこで、教理を教え、教会の組織化を実行した。

4. 教会の組織化が行われた。

- (1) 教会は、ユダヤ人の会堂の組織を真似て組織化された。
- (2) 長老たちが任命された。
 - ①牧師は、長老のひとりである。

5. 異邦人の救いが普遍的真理として認識された。

- (1) 異邦人は、恵みと信仰のみによって救われる。
- (2) この真理は、すべての町々で実証された。
- (3) イエスを主と信じる信仰は、異邦人世界に急速に広がり始めた。
- (4) ユダヤ人信者の中の律法主義者との衝突が予想される。

6. 試練の意味が説き明かされた。

- (1) 使 14：22

Act 14:22 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならない」と言った。

- (2) 「神の国」とは、地上に成就するメシア的王国のことである。
- (3) メシア的王国が成就するまでは、多くの苦しみを通ずる信者が多く出る。
- (4) この世の支配者は、神と神を信じる者たちに敵対する。
- (5) 苦難の経験は、信仰者の生活の一部である。
- (6) パウロ自身が、そのことを経験している。
- (7) 主イエスが警告を発しておられる（ヨハ16:33）。

Joh 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

7. 神は、ご自身のしもべたちが絶望しないように祝福を用意しておられる。

- (1) ルステラでの迫害とデルベでの祝福
- (2) ルステラで救われた者たちの中にテモテがいた。